# 美の国カレッジ 情報2011

2011.11.29（火）
12月号
発行：秋田県生涯学習センター

## 美の国カレッジ特別公開講座「発見!秋田の文学」

講師の北条シニアコーディネーター

秋田県生涯学習センターの北条常久・美の国カレッジシニアコーディネーターを講師とした美の国カレッジ特別公開講座「発見！秋田の文学」（２期・全６回）がスタートしました。

１１月１０日は、第１回芥川賞を受賞した「石川達三『蒼氓（そうぼう）』」が題材で、ブラジルに移住する日本人の人間模様をユーモアを交えて話されました。

移民船「らぷらた丸」に乗船し、ブラジルに渡航するためにはある条件を満たさなければならず、そのために偽装結婚せざるを得ない家族の心理を巧みに描いているこの作品に関して、北条シニアコーディネーターが登場人物と思われる家族の足跡を訪ねて宮城県白石市まで足を運ぶなど、資料的な裏付けは大変興味深いものでした。

受講者からも積極的な質問や意見が出され、秋田が輩出した作家について理解を深めていました。

１１月２２日（火）は「伊藤永之介『消える湖』」、１１月２９日（火）は「石坂洋次郎『山と川のある町』」が、１２月７日（水）からは「小林多喜二の文学」をテーマに３回にわたって講座が行われます。

## 美の国れんけいカレッジ「発掘!考古ゼミ」

秋田県埋蔵文化財センターとの連携による「発掘！考古ゼミ」が１１月４日（金）から全４回シリーズでスタートしました。

出土品を手に説明する山田氏

第１回は、にかほ市にある阿部舘（あべだて）遺跡について、県埋蔵文化財センターの山田徳道学芸主事が発掘調査結果をわかりやすく説明されました。また実際に発掘された出土品も並べられ、受講者は出土品に触れたり、カメラに収めたりしていました。

第２回は、秋田市河辺にある黒沼下堤下館遺跡について、県埋蔵文化財センターの高橋学主任学芸主事が説明されました。

黒沼下堤下館遺跡について説明する高橋氏

高橋氏が「国道１３号線の拡幅工事による調査でわかったことですが、この遺構は鍛冶を生業とする集落の跡で、秋田平野南部の丘陵頂部になぜこのような集落跡があるのか、後三年合戦で滅びることになる清原氏と関係があるのかが今後解明しなければいけない大きな課題です。」と説明すると、受講者は真剣にメモを取っていました。

第３回は仙北市にある月見堂館遺跡、第４回は湯沢市にある臼館跡について講座が行われます。

## キッズ&ユース・カレッジ秋田キャンパス「子ども新聞記者になっちゃおう!」

記事の書き方について説明する岡部氏

１１月２０日（日）、美の国キッズ&ユース・カレッジ秋田キャンパス「子ども新聞記者になっちゃおう！」が、秋田市大町にある「秋田市民俗芸能伝承館（ねぶり流し館）」を会場に開催され、１８名の小学生が参加しました。

はじめに、秋田魁新報社の岡部千穂記者を講師に、記事の書き方について学びました。その中で岡部氏は「新聞記事を書くときは大事な内容から書き始めます。こうすると大きなニュースが入ったときに大事ではない後ろの内容を削って文字数を調節できるからです。また、内容には『５W１H』を明確にすることが大切です。」と説明され、子どもたちは一生懸命にメモを取っていました。

大人顔負けの取材

午後からはねぶり流し館を見学し、職員を質問責めにするなど熱心に取材をしていました。

その後、メモを見ながら新聞記事を書き上げていきました。参加者が作成した記事は後日、オリジナルの新聞となって参加者に届けられることになっています。

## キッズ&ユース・カレッジ秋田キャンパス「お祭りから秋田市を学ぼう!」

竿燈の模範演技にびっくり！

１１月２０日（日）、美の国キッズ&ユース・カレッジ秋田キャンパスと「お祭りから秋田市を学ぼう！」が、秋田市大町にある「秋田市民俗芸能伝承館（ねぶり流し館）」を会場に開催され、３２名の高校生が参加しました。

はじめに、二人のゲストティーチャーから話を聞きました。秋田市竿燈会の藤田勝会長、土崎神明社の伊藤茂樹宮司が講師となり、秋田市竿燈まつり、土崎神明社例祭（土崎曳山行事）の歴史やしきたりについて説明がありました。

参加したことのあるお祭りで今まで知らなかった事実が紹介されるたびに、参加者は驚きの声を上げていました。また、興味深い内容に熱心に耳を傾けていました。

１階の展示ホールでは、秋田市竿燈会のメンバーが「中若」と呼ばれる重さ約３０ｋｇの竿燈を使って模範演技を行い、次々に繰り出される妙技に拍手がわき起こりました。

小若（１５ｋｇ）と幼若（５ｋｇ）を使って竿燈の演技に挑戦しましたが、バランスを取ろうと動き回る姿に、仲間から笑いが起こったり、応援する声も聞かれました。

そして「秋田市のお祭りを知っていますか？」「ふるさとの情報発信者になろう！」というテーマでワークショップが行われ、ワークショップ後の発表では、「お祭りを通して秋田市が非常に魅力的な町であることが再認識できた。」「誇りを持ってふるさと秋田の竿燈を自慢できるようにがんばりたい。」という頼もしい意見に、会場は拍手で包まれました。

ワークショップの様子

「美の国カレッジ情報２０１１」は、生涯学習センターHP(http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/)からカラー版ＰＤＦファイルでダウンロードできます。